

第 42 回日本救急医学会総会・学術集会
女性医師参画推進特別委員会

今回の総会における委員会企画

1. ‘男性もは入れる’女性救急医師ラウンジ
2. 特別企画：救急医療における女性医師参画推進の取り組みについて

各企画の結果の概要

【‘男性もは入れる’女性救急医師ラウンジ】

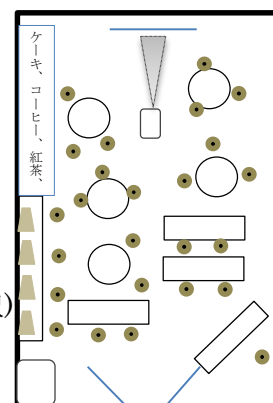
ra

- ① 開設時間 1 日目 (10 月 28 日) 10 時～12 時、13 時～17 時
(10 月 29 日) 10 時～12 時、13 時～17 時
(10 月 30 日) 10 時～12 時
- ② プレゼンテーションスライド (スライドショー) 1 台
閲覧用パソコン (約 20 名の女性医師キャリアパススライドを自由に選択)
- ③ 来場者数 男性 137 人 女性 136 人 計 273 人 (昨年 の 3 倍以上) …!
- ④ 女性だけでなく男性も、一人で、グループで、あるいは御夫婦、お子さん連れで参加。常に来訪者がいる状態であった。
- ⑤ 特にイベント時間を設けているわけではないが、スタッフが来場者に委員会の取り組み紹介、若い女性医師への声掛け (日ごろの悩みを伺うなど)、施設間の情報交換などを行った。時に、若い女性医師が日ごろから鬱積した悩みを泣きながら訴える場面、「女性医師の妊娠出産で、急きょ当直を組み直さなくてはならない」と男性医局長が熱く訴える場面などもあった。
- ⑥ 多くの方は、くつろいでドリンク、お菓子を楽しみながら、スクリーンのスライドショーをご覧になっていたが、研修医、学生など若い女性医師は、自由閲覧のパソコンに向かって熱心にみておられた。

〈本企画に対して、いただいたご助言〉

- 十分な情報交換や来場者の抱える問題の抽出まで至っていないので、トークショーなどの時間を設ける、など、もう少し考えた方が良い(女性医師より)
- 子育て世代の男性のスライドなどもあってもよい (子育て協力中の男性医師より)
- ‘女性も入れる’男性医師ラウンジも設けては (???) という意見も。

また、若い女性医師—特に研修医や学生さんは、やはりロールモデルはないかと、情報を求めている。ところが、女子学生にとっては、個々の医局の説明会などには参加可能だが、いろいろなロールモデルに触れる機会はなかなかない。日本救急医学会として、全国でそのような機会をつくる (講演会、懇親会など) ということも早急に考えてゆく

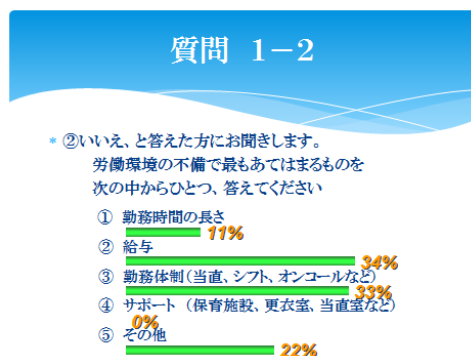
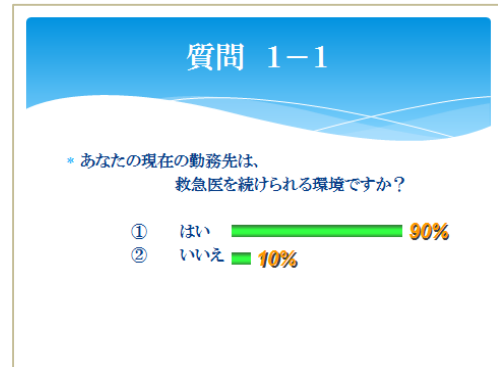


【救急医療における女性医師参画推進の取り組みについて】

会期 3 日目（10 月 30 日）午後 1：20～3：20 特別企画 2

1. 冒頭スライド：女性医師参画推進委員会発足の経緯と昨年度、今年度の活動内容
昨年、今年の「女性救急医ラウンジ」の結果報告
特別企画 2 の説明

2. アンサーパッドを用いた参加者投票型意識調査 前半の質問と回答結果



3. 委員による基調講演 4 題と、コメンテータとして、厚生労働省医系技官で現在、国立国際医療研究センター研究医療課長の高岡志保先生のご講演

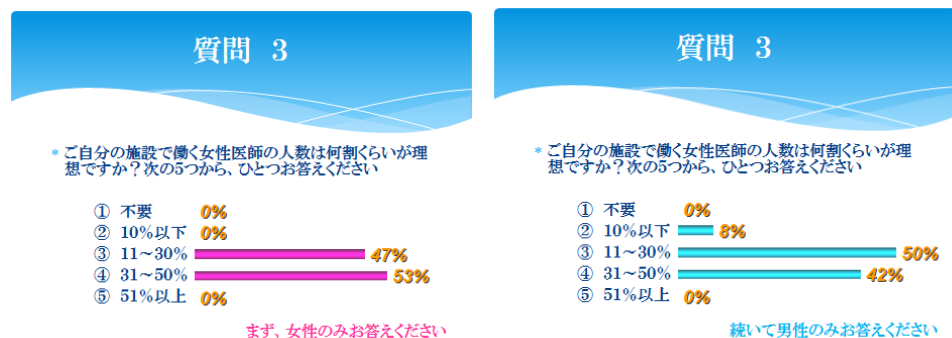
- ①角 由佳 2013 年日本救急医学会女性医師会員アンケート調査結果
- ②岡田昌彦 がんばれ！女性救急医 応援に必要なものは…
- ③並木みずほ 当救命救急センターの女性医師
- ④畝本恭子 他学会の女性医師参画への取り組み
- ⑤コメンテータ

高岡志保先生 政策面からみた女性医師参画

続いて講演を踏まえ、

4. アンサーパッドを用いた参加者投票型意識調査 後半の質問&ディスカッション

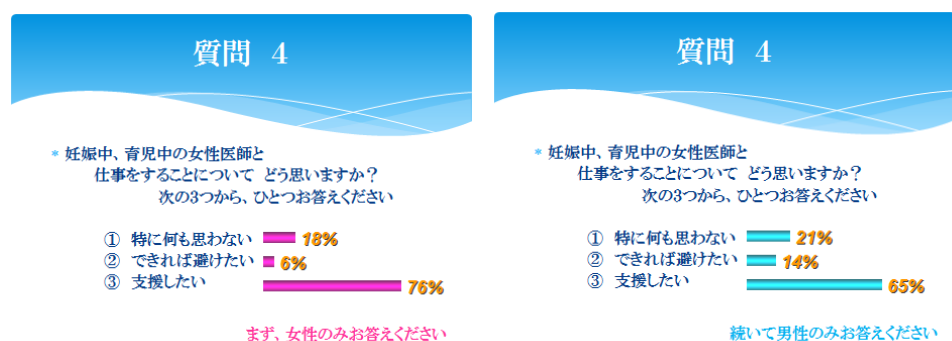
質問 3 結果



discussion

女性、男性ともに同数以上の女性医師割合を望む意見はなく、男性医師からは 10%以下で良いという意見もあった。11~30、31~50%に、男女で若干差があるものの票が集中した。10%以下の意見の方からの、管理者の立場でのコメントは、例えば妊娠中の方が医局員枠を取っていて、当直人数がギリギリの場合などを考えると、当直できない可能性がある人の比率は少ない方が良い、ということであった。

質問 4 結果



discussion

特に何も思わないという回答は男女差はなかったが、できれば避けたい、という票は男性の方が多かった。医師同士のご夫婦で子育て中の男性医師の方から、ご自分も家事、育児に係らざるを得ない（お子さんが増えるにつれ、奥様だけでは無理になってきた、など）、または積極的に関わっているので、周囲の理解がありがたい、というコメントもいただいた。

質問 5

質問 5 は、実際に女性医師との結婚を選んだ、あるいは選ぶ場合に男性医師がどのくらい育児（介護）のための負担を背負えるか。休暇を取るか、ということについて伺った。

質問 5-1

* 男性に伺います。
現在の配偶者は専業主婦ですか？
あるいは、未来の配偶者は専業主婦が
よいと思いますか？



質問 5-2

* 女性に伺います。
結婚するなら医師がよいですか？
(既婚の方も教えてください)



質問 5-3

* 女性医師に伺います。
育児や介護などで休業が必要なとき、
配偶者にも育児・介護休暇を取ってもらいたい、
と思いますか？



質問 5-4

* 男性医師に伺います。
育児または介護が必要なとき、ご自分が(も)、
育児休暇、介護休暇を取得しようと思いますか？



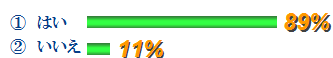
男性は、半数が専業主婦との結婚、女性は 3 分の 2 が医師以外の男性との結婚を考えている。育児休暇については、女性は男性にも取ってほしいと 9 割が感じており、男性の「(自分が)とっても良い」の 6 割との間にギャップがあることに気付く。

コメンテータの高岡先生から、この差は、男性の家事分担への意識がまだ低いということを感じさせ、少なからず驚いた、という意見をいただいた。これに対し、女性医師の奥様と幼児の子育て中の医師は、「医局の中に男性医師が育児休暇を取る、という前例、土壌がない、それがあれば、取るが…」とコメントされていた。

質問 6：最後に、日本救急医学会における女性医師参画推進の一環として、意思決定に係れる女性医師数を増やすことについて投票をお願いした。

質問 6

- * 学会の意思決定の場として、「評議委員会」があります。
- * 現在、女性会員数は全会員の約10%ですが、
女性評議員の割合は 2.6%です。
- * 今後、女性評議員を増員することに賛成ですか？



全員でお答えください。

以上の投票結果と、討論を踏まえて、
日本救急医学会女性医師参画推進委員会としての提言が田中担当理事から発表された。

1. 労働環境の整備
2. 多様性のあるロールモデルの提案
3. 仕事と家庭の両立支援対策
4. 女性評議員数の増員：会員比率に合わせ 20～25 人を目標とする。

以上